

城山登山道案内図

令和2年 佐伯市観光課（協力：佐伯市教育委員会）



①三の丸櫓門

寛永14年(1637)三代藩主・毛利高直は、三の丸御殿を創建し、藩政の場を山頂から麓の三の丸に移して櫓門を設けた。藩政時代に2度建て直しされ、現在の櫓門は天保3年(1832)に建てられたもの。

(県指定有形文化財)



②毛利神社と鳥居

昭和3年(1928)に山頂の天守台跡に毛利神社が創建された。祭神は藩祖・毛利高政と八代藩主・毛利高標。社殿は太平洋戦争中、昭和20年4月26日の空襲で破壊されたが、城山麓の鳥居は現存する。



③城山還元の碑

城山は明治2年(1869)版籍奉還により、明治政府の国有林となる。その後、佐伯県執事係、山中盛太郎氏の陳情により、明治34年、毛利家に還元され、明治44年、記念碑が建立された。



④独歩碑

明治26年(1893)鶴谷学館に英語教師として赴任した国木田独歩は、僅か10ヶ月の滞在だったが、後年、佐伯を舞台にした作品を多く残している。「春の鳥」「源おち」の舞台である城山山頂に、昭和31年「佐伯独歩会」によって独歩碑が建立された。



⑤本丸石垣

高さ6mの石垣である。本丸外曲輪から本丸に登る大階段は、毛利神社創建後のもので、両側の曲線を描く石垣もこの時積み直された。絵図によると、本来は隅(すみ)があったと考えられる。



⑥三の丸虎口(渡櫓跡)

虎口とは城郭における出入り口のこと。三の丸では敵の侵入を阻むために通路を屈曲させ、幅を狭めている。当時は渡櫓と門があり、現在も門の礎石をみることができる。

城山登山道コース

独歩碑の道

緩やかで登りやすい、散策に適したコース。山頂付近には、捨曲輪(すてぐるわ)の一つが見られる。

翠明の道

かなりの急勾配で階段の段差もあるため、足元に十分気を付け休憩しながら散策を。尾根の上には、藩主の涼み場と伝わる翠明台の跡がある。

登城の道

藩政時代より続く、当時に実際使用されたままの勾配のあるコース。中腹からは昔ながらの景観を見られる。

若宮の道

若宮八幡宮へと続く雄池・雌池のある裏手のコース。雄池への道は非常に細いため、注意して通行を。

山頂までの所要時間は各コースおおむね20~30分程度
落ち葉等で滑りやすい箇所もあるため、運動靴・動きやすい服装での登山を推奨します。



⑦廊下橋

本来、本丸に入るには三の丸を通過して廊下橋を渡り、幅の狭い階段を登らなくてはならなかった。有事の際には廊下橋を落として敵の侵入を防ぐといわれ、堅固で実践的と評される佐伯城を象徴する施設である。



⑧本丸・天守台跡

佐伯城には三重三階で南向きの天守があったと伝わっている。しかし、築城後程なく失われ、再建されることもなかったため、詳細は不明。現在は古文書の中に伝承として記されるのみである。



⑨雄池(上段) 雌池(下段)

城の生活用水や防災のための水を2つの池に貯めていたと考えられる。上段の雄池から下段の雌池へ水を流し豪雨の際でも溢れないよう水位調節が可能な水門とみられる水利施設の跡がある。(※写真は雄池)



山頂拡大図



⑩階段状の石垣



※北側園路より

石垣の前面に別の石垣を重ねて4段の階段状とした非常に大規模なものであり、それぞれの段の天端面まで石垣を築いている。また、一般的な城郭の石垣と異なり、隅角部が丸くカーブを描くように積み重ねられている点も大きな特徴。享保19年(1734)に崩れた斜面の復旧のために築かれたことが明らかになっており、治水工事の設計思想を城郭の石垣に取り入れたものであると考えられる。